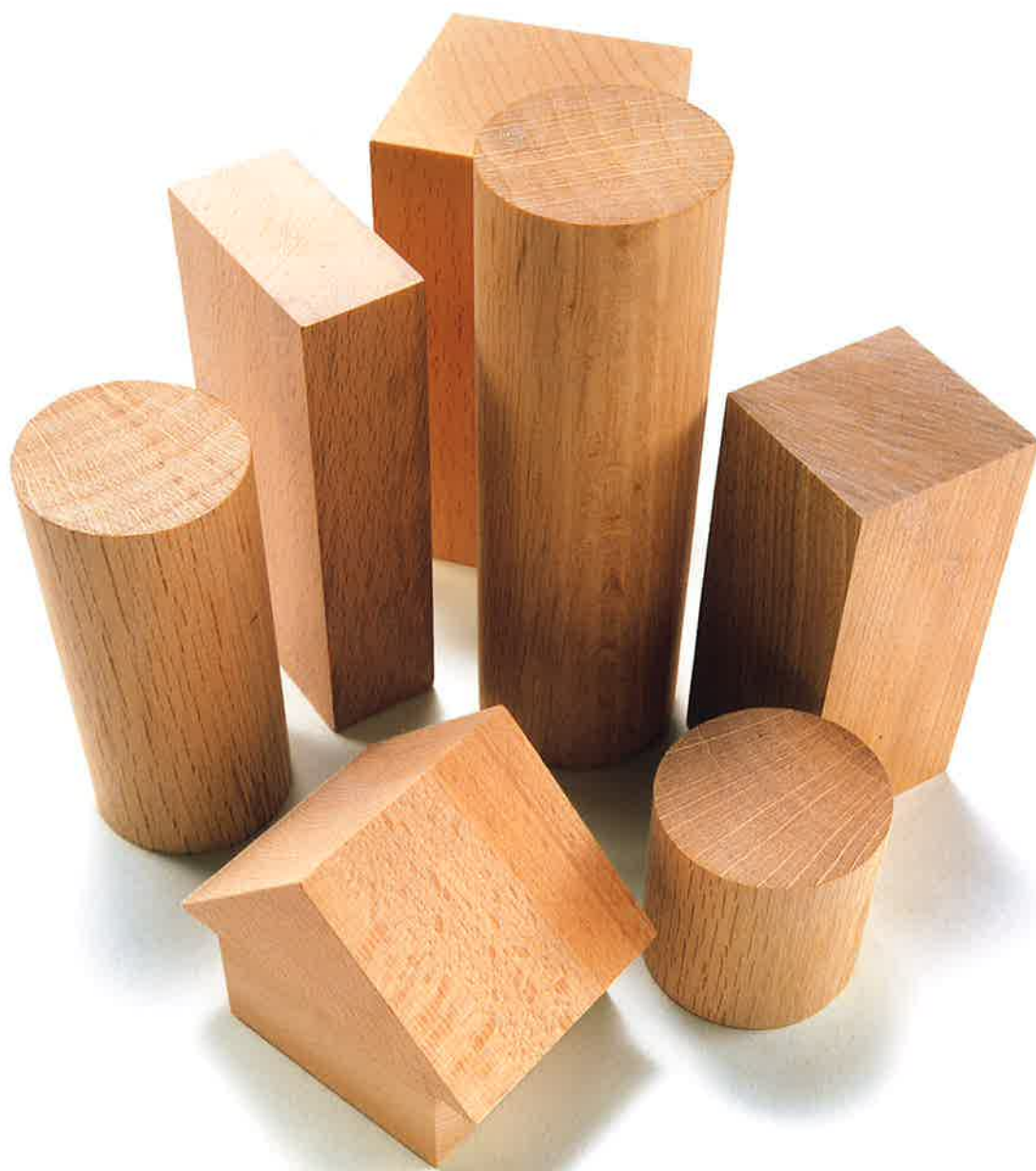


家づくり職人の世界





家をつくる仕事

社会には、さまざまな職業があります。
はなやかに見える職業でも、時代の流れであつと
いう間に消えてしまう職業もあります。
家づくり職人の世界は地味ですが、「家づくり」は、
いつの時代にもなくてはならぬものであり、
人間の生活に大きな影響をおよぼすものです。

家づくり職人の世界は、仕事の手ごたえと充実感、
ものをつくる楽しさと喜びがある魅力に
富んだ世界なのです。

このパンフレットは中学、高等学校の
卒業生の皆さん、進路指導の
先生方に家づくり職人の
ことを知っていただくために
作ったのですが、

大学・短大卒の皆さん、就職したものの
職業を見直そうとしている皆さんなどにも
読んでいただければ幸いです。



職人の誇りと よろこび



工場労働者は大きな組織の中で働いており、全体の中の自分の役割がつかみにくい上、仕事も製品のムラをなくすため、個人差が出ないことが良いとされます。職人の仕事は全体がよく見え、自分の役割もわかりやすく、仕事にはそれを手がけた職人の能力や個性がはっきりと残されます。大工が良い仕事をするると後の工程の左官や板金の職人は、大工の仕事に負けない仕事をしようと、思わず緊張するということです。また、職人の仕事は奥が深く、工事のたびに条件がちがってくるので創意工夫が必要であり、すぐれた職人ほど「職人の仕事に完全ということはない。職人は一生修業だ」といいます。

職人は日常の仕事の中で技をみがき、仕事の手ごたえを実感しながら、職人としての気がまえ、心を養って成長していきます。建築主の頭の中の構想に色がつけられ、形を与えられて家が完成したとき、建築主とともに職人も「ものづくり」の充実感とよろこびを味わうことができます。



職人の賃金・労働条件

長い間、職人が仕事でケガや病気をしても充分には補償されない状態でしたが、最近では職人の組合の努力によって、各地で国民健康保険組合が運営され、国民年金基金の設立、労働災害補償の上乗せ制度や各種の共済制度も充実してきました。賃金も良くなり、有給休暇や退職金制度も広がり、労働時間も短くなってきました。また、電動工具や小型建設機械が普及し、力仕事・重労働が少なくなって作業環境も改善され、まだ少数ですが女性の職人もでてきています。

最近では手仕事の良さが見直されるようになってきました。家づくり職人の世界は国民の住生活を豊かにする社会的に重要な役割を果しており、若くても高収入が得られ、独立・自営の道も開かれており、さまざまな個性と能力をもつ若い人達を受け入れることができる世界です。





“職人になる”——方法と訓練

職人の養成は、一人ひとりの親方（工務店・事業所）にまかされているため、見習期間や訓練方法・賃金などについて、共通のはっきりした基準がありません。地域や職種によってもちがいがありますので、自分のやりたいことをよく考えて、工務店や事業所（左官・板金などの専門工事業者）を選ぶことが大切です。

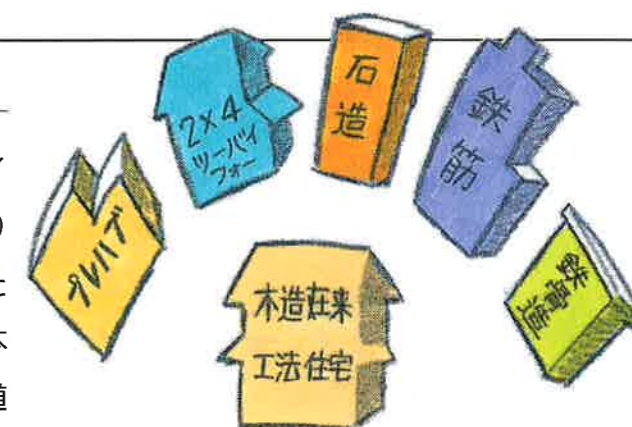


目標を持つ

職人になるには、まず工務店・事業所に雇われることが必要です。どんな工務店・事業所を選ぶかは、あなたの目的によりますが、応用のきく職人になるには基礎からしっかり学ぶことが必要です。

① 基本をしっかり学びたい

住宅には木造在来工法のほかプレハブや2×4（ツーバイフォー）、石造、鉄筋・鉄骨造などさまざまな住宅がありますが、それらはすべて、木造在来工法住宅で育てられた職人によって建てられています。木造在来工法住宅の基本と技能を基礎から学ぶことは、応用が効くので結局は早道であり、有利になります。



② 早く高収入をあげたい

大手の住宅メーカーなどでは、自社専用の職人を養成している会社もあり、また、一つのメーカーの仕事に専門にしている工務店もあります。専用の職人であるため、比較的早く一人前になり、一人前の賃金をとることが期待できます。ただし、その会社をやめた時どこでも通用する技能が身につけていないかも知れないので、その点をよく確かめておくとよいでしょう。また、職種によっては2～3年で一人前になれるものもあり、それもよく考えて決めて下さい。



③ 職人の適齢期

手に職をつけるには、若いほど良いといわれてきましたが、最近では電動工具や機械化もすすんでおり、高度な技能職でも30才ぐらいまでは大丈夫です。職種によっては40才になっても見習工になれるものもあります。



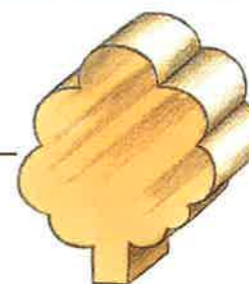
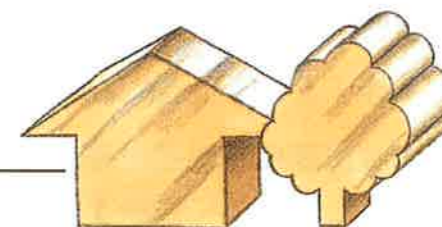


工務店・事業所選びのチェックポイント

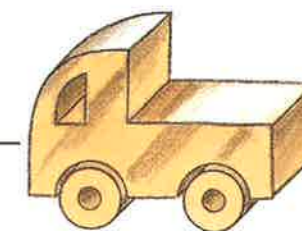
- 1 木造在来工法住宅の仕事を中心にしていること (特に大工
- 2 その地域の仕事を主にしていること
- 3 主として自社の職人で工事をしていること (会社が大きく
- 4 見習生を採用したことがある工務店・事業所
- 5 賃金や労働条件が、その地域の中卒・高卒のそれぞれ
- 6 賃金や雇用条件をはっきり示す工務店・事業所
- 7 近くの人の評判がよい工務店・事業所

以上は、あくまでチェックポイントで絶対的なものではありません。例えば6で「賃金や雇用条件をはっきり示す工務店・事業所」と書きましたが、工務店・事業所の方でも「まず来てもらって、見込みのある人かどうかをよく見きわめてから待遇をきめたい」と思っている所もあり、条件をはっきり示さない工務店がすべてダメだということではありません。

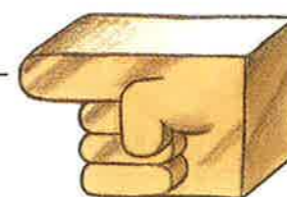
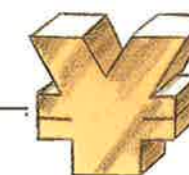
職を選ぶ人)



ても、工事を外注している会社はさけない)



平均的な初任給の水準に近いこと



自分の考えをはっきり伝え、工務店・事業所の言い分も聞き、自分で定めることが大切です。

また、採用条件で行き違いなどが起こらないように、職業安定所や職業訓練校を通すことをおすすめします。